

★8月の休館日：1日(月)、8日(月)、22日(月)、29日(月)



プラネタリウム番組のご案内

8月の一般投影 星を使った航海術

大海原で今いる位置を知るにはどうしたら良いでしょうか。現代であれば、GPSや地図を使って、位置や方向を調べることができます。大航海時代、ヨーロッパの人々は、時計や海図、六分儀、コンパスといった道具を使いながら、星を頼りに自分のいる位置や進む方向を決めました。一方、近代的な機器がなかった時代、太平洋に暮らす人々は、カヌーを操り、星、太陽の動き、潮流、雲の形、海の色、鳥の習性を目印に、島から島へと移動していました。中でも星は重要な目印でした。

例えば、北極星は北の方角に輝き、高さはその土地の緯度と一致します。星の出没地点からも方角がわかります。図のように15の天体・星座の出没を配置した「スターコンパス」を用いて、方角を調べ、カヌーを進める方向が決まりました。また、広い太平洋上に浮かぶ島ごとに天頂星(頭の真上に見える星)を記憶するなど、200近い星が目印として利用されました。

空の星々を見つけるために、「スターライン」と呼ばれる星の並びがあります。ハワイのスターライン「マウイの釣り針」では、夏の大三角をつり糸、さそり座を釣り針、いて座を魚と見立てて結びます。半人半神マウイが大きな島を釣り上げた魔法の釣り針という神話も残されます。

太平洋で古くから伝わる星を使った航海術とともに、南半球の星空をご紹介します。



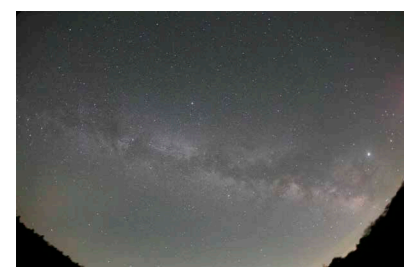
カロリン諸島のスターコンパス

キッズ
プラネタリウム

★幼児や小学校低学年を対象とした子ども向けプラネタリウムです。

あまのがわのひみつ

☆~8/31(水)☆
11:10~、14:30~



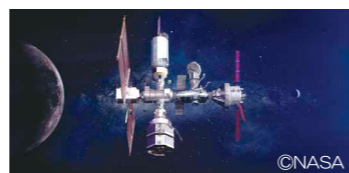
街明かりが少ないところで星空を見ると、ほんやりと白く輝く天の川を見ることができます。夏の星座や、天の川についてお話しします。

9月の一般投影

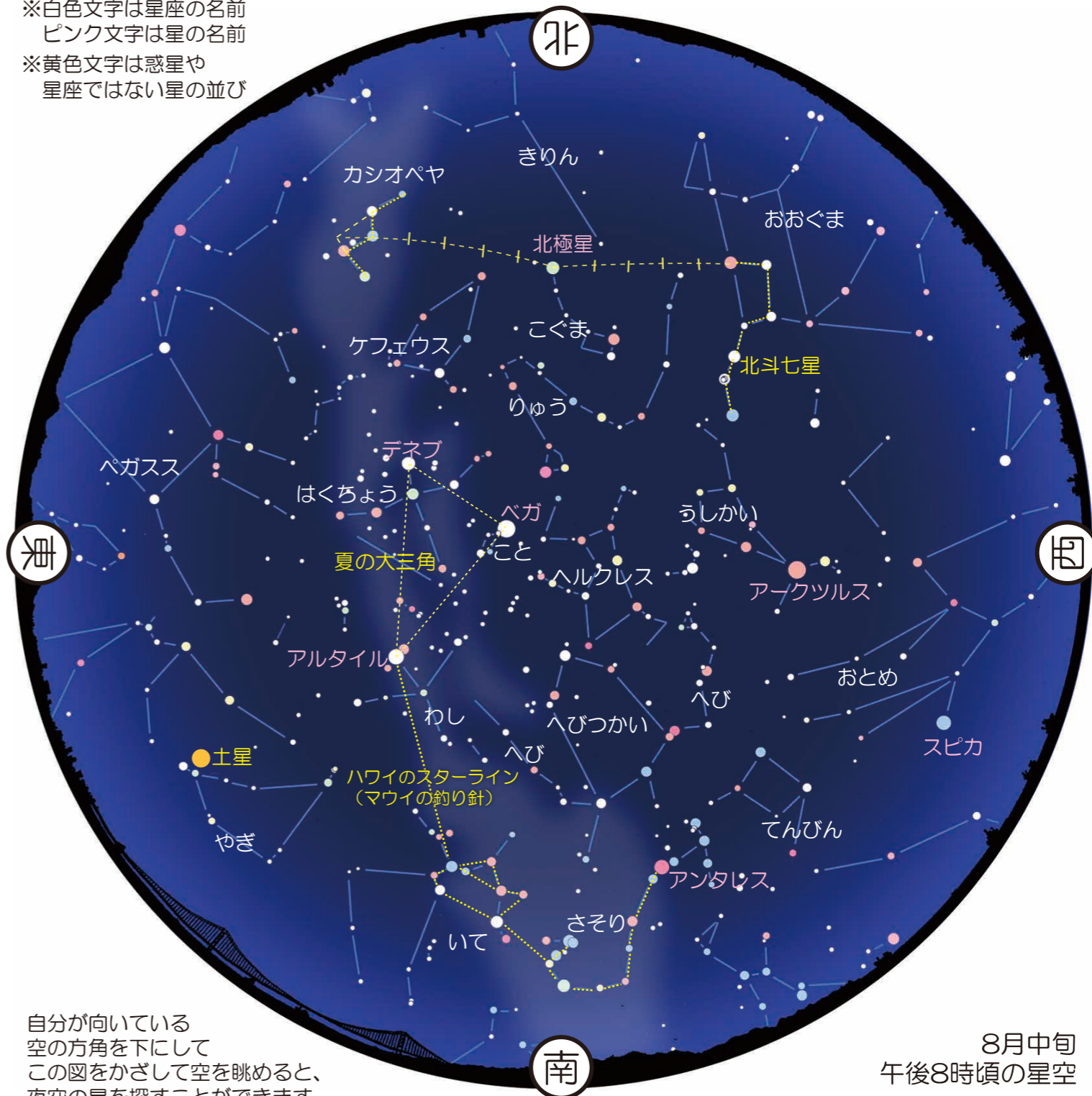
月探査最前線

NASAは、2024年までに月面に再び人類を送ることを計画しています。この「アルテミス計画」では、ゲートウェイ計画などを通じて、月に物資を運び、人類が生活し活動するための拠点を建設することを目指しています。

日本では、JAXAの計画「SLIM」も進行中です。最新の月探査について紹介します。



※白色文字は星座の名前
ピンク文字は星の名前
※黄色文字は惑星や
星座ではない星の並び



自分が向いている空の方角を下にしてこの図をかざして空を眺めると、夜空の星を探ることができます。

8月中旬
午後8時頃の星空

※ハワイのスターラインについては、表面をご覧ください

8月の天文現象

- 4日 旧暦七夕
- 7日 立秋
- 12日 月と土星が並び
- 13日 ペルセウス座流星群が極大
- 15日 月と木星が並び
- 15日 土星が衝
- 19日 月と火星が並び
- 23日 処暑
- 26日 月と金星が並び(明け方)
- 28日 水星が東方最大離角
- 29日 月と水星が並び

月の暦

- 5日 上弦
- 12日 望(満月)
- 19日 下弦
- 27日 朔(新月)

日の出・入(明石)

日の出	日の入
1日 5:10	19:03
15日 5:20	18:49
30日 5:31	18:30

空高くには、夏の大三角を形作ること座のベガ、わし座のアルタイル、はくちょう座のデネブの3つの1等星が輝いています。夏の大三角の中でも一番明るいベガは“夏の夜の女王”とも呼ばれています。ベガは七夕の織姫星、アルタイルは彦星です。街明かりの届かないところでは、北の空のカシオペア座から夏の大三角、南の空のさそり座にかけて、白くほんやりと輝く天の川が見つかります。

北西の空の、7つの星がひしゃくの形に並んだ北斗七星か、北東の空の“W”の形に星が並んだカシオペア座から、図のように北極星が見つかります。

日没後、南東の空に土星が輝いています。夜明け前にかけて、東の空から木星、火星、金星も昇ってきます。金星が「明けの明星」として明け方見えるのは、今年は9月上旬頃までで、12月中旬頃からは「宵の明星」として夕方に西の空に見えるようになります。

特別展のご案内

~9/4(日)

星と海 ~太平洋に伝わる航海術~ 展

太平洋の島々には、星をたよりに舟を進める航海術が伝えられています。人々は、星だけではなく、波のようすや海上に吹く風など、あらゆる自然を感じながら舟を進めました。南半球の星空や、古来の航海術を人々の文化とともに紹介します。

